様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１２６０８
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１３４１０

研究課題名（和文）アメリカ南部例外主義とニューディール政策下における元奴隷のナラティブ

研究課題名（英文）The U.S. Southern Exceptionalism and Ex-slave Narratives in the New Deal Era

研究代表者
山根　亮一（Yamane, Ryoichi）

東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・准教授

研究者番号：９０７７００３２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、プリントカルチャー史におけるアメリカ南部例外主義の在り様を分析、批評した。議論の対象としたテクストは多岐にわたり、大恐慌時代における元奴隷のナラティヴから、同時代に多く作品を残したノーベル文学賞作家ウィリアム・フォークナー、そして彼の評価を確定させた南部農本主義的伝統と冷戦期的イデオロギー、さらには19世紀作家ウィリアム・ギルモア・シムズにまで至った。その研究成果は、American Studies AssociationやInternational Poe & Hawthorne Conferenceといった国際学会や，日本英文学会、日本アメリカ文学などで発表された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、一方で、自らの文化や伝統を例外化しようとするナルシシズム、内側からの南部例外主義がどのように形成されていったかを論じた。他方で、外側からの例外主義、つまり人種問題等を南部のことだけのこととして還元しようとする傾向についても、南北戦争時代から冷戦文化を含む様々な時代における文学テクスト内に探してきた。付言すれば、一貫性のある意思によってこの例外化が達成されたのではなく、むしろ本や雑誌の物流や形式を含む様々な物質的要因によって結果的に南部は例外化されていった。こうした理解は、近年より緊張度を高めるアメリカ分断社会の在り様を解釈するのに不可欠だ。

研究成果の概要（英文）：This study examines the ways in which the US Southern exceptionalism shaped itself in the history of the nation's print culture, criticizing a wide range of literary texts about the regional identity: the former-slave narratives collecetd by Federal Writers' Project in the New Deal era, novels by the 1949 Nobel laureate William Faulkner, and various criticisms by agrarian critics in the 1930s and by cultural Cold Warriors that cemented Faulkner's high reputation, and works by William Gilmore Simms, one of the most productive writers in the 19th-century US South. Academic presentations on this topic were given in international conferences such as American Studies Association, International Poe & Hawthorne Conference, and also in major two conferences in Japan, the English Literary Society of Japan and the American Literature Society of Japan.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ南部例外主義　William Faulkner　冷戦　大恐慌　南北戦争　プリントカルチャー　William Gilmore Simms　アメリカ文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

2010 年代になっても、アメリカ南部例外主義に関する関心は非常に高まっていた。2016 年 1 月出版の *PMLA* 誌において、“Adjust Your Maps: Manifestos from, for, and about United States Southern Studies”というタイトルの下で、11 人の卓越した研究者たちがそれぞれ現在の南部研究の窮状を訴えたこと。その冒頭部分で、Michael P. Bibler がアメリカ南部例外主義についての深刻な問題に言及している。彼によると、この例外主義、すなわち、アメリカ南部が独特なアイデンティティーを持つという排他的思想は、現在では単に南部人たち自身が作り上げたナルシシズムとしてだけではなく、アメリカの非・南部人たちが自らの人種差別的な意識や制度を隠ぺいするために利用するラベルとしても機能している。この文脈において、南北戦争の記憶、人種主義、性差別、人種隔離政策（法制度上であれ事実上であれ）といった諸問題は、あくまで奴隷制時代やジム・クロウ法時代の記憶を抱えた「南部」だけの例外的な文化、歴史として判断されるのである。実際には、それらはアメリカ人全体、あるいは全人類に関わる人権問題であるにもかかわらず、だ。現在の南部研究が取り組むべき主な問題は、上記のような例外主義をいかに打破するかということである。

とりわけ 2010 年代に入って、この問題に取り組む文学研究が多く出版されている。2016 年春号の *American Literary History* 誌において、Veronica Makowsky は William Faulkner の研究で知られる Jay Watson の *Reading for the Body: The Recalcitrant Materiality of Southern Fiction, 1893-1985* (2012)、Jason Phillips 編集の文学論集、*Storytelling, History, and the Postmodern South* (2013)、そして新南部研究の旗手の一人、Jon Smith の *Finding Purple America: the South and the Future of American Cultural Studies* (2013)を例として挙げている。しかしマカウスキーがこれら 3 つの著作について次のように批判していることも忘れてはならない。彼女によれば、上記の研究はアメリカ南部例外主義の解体に大いに寄与してはいるが、その一方で、あまりに研究者独自のやり方で南部とそれ以外の地域の接続を行っているため、結果として、アメリカ南部とは何かという根本的な問いについての理解を遠ざけてもいるのである。このことは、同地域を例外的な文化領域ではないと主張することの代償であり、現在の南部研究者たちに重くのしかかっている研究手法についての問題である。

ではどのような手法であれば例外主義を回避しつつアメリカ南部を表象できるのか、ということが、本研究開始当初の主な背景であり問題意識である。

２．研究の目的

本研究の当初の目的は、主にニューディール期に Federal Writers' Project によって収集された元奴隷のナラティブを、アメリカ南部例外主義の言説において再考することであった。21 世紀に入って、Jon Smith、Jennifer Rae Greeson らといった New Southern Studies の研究者たちの努力によってアメリカ南部の例外主義は脱神話化されつつあるものの、その一方で「そもそもアメリカ南部とは何なのか、何だったのか」という地域的アイデンティティーについての問いが浮上している。本研究の最終的な目的は、そうした問いに回答することである。そして研究が進むにつれ、この最終的な目的の方がより喫緊の課題になってきた。というのも、アメリカ南部の地域的アイデンティティーを考察するときに、避けては通れない作家や批評家たちがより明快に見えてきたからである。結果として、William Faulkner や William Gilmore Simms といった主要な南部作家たちや冷戦期に活躍した文化人たちの言葉やその発表媒体、あるいはより大衆的な雑誌の構成などを注視することが、本研究の目的に更なる深みを加えている。

３．研究の方法

研究の方法は元々量的な（主種雑多な文献）調査を主眼としていたが、理論上、その作業が近年盛り上がりを見せたプリントカルチャー論と親和性が高いことが次第に分かってきた。この視角は、書き手だけではなく、出版社、流通経路、ジャケット・デザイン、そして批評家の書評など、出版に関わる各主体を優劣つけずに議論の対象とする文化研究である。このように文学テクストを主種雑多な主体群によって構築された現象としてみなす手法は、アメリカ南部文学の領域においては、とりわけ William Faulkner や Edgar Allan Poe といった主要作家の研究において進められてきた。本研究はその理論的蓄積を参照しながら、とくにプリントカルチャーとアメリカ南部例外主義の関係について議論するものである。

この調査のために、サウス・カロライナ大学、ケンタッキー大学、オハイオ州立大学、ロックフェラー財団、コロンビア大学のアーカイヴなどで資料調査を行った。南部では 19 世紀作家 William Gilmore Simms や 20 世紀のヒルビリー作家 Jesse Stuart の出版物、中西部ではヒルビリー漫画家ポール・ウェッブの資料、そして東部では冷戦文化関係の文献を収集した。南部と冷戦文化、イデオロギーの関係をより具体的に考察するためである。

アメリカ自由民主主義文学の読書会は、概ね 4 か月に一度のペースで着々と行ってきた。冷戦期のアメリカ文学批評を特徴付ける F. O. Matthiessen の大著をはじめ、いかに特定のイデオロギー（あるいは、反イデオロギー）の下で南部文学が取り扱われてきたかを明らかにする営みであった。また、冷戦期における日本のアメリカ文学についても射程に入れた。巽孝之らこの分野を牽引してきた学者たちにインタヴューを行い、どのように彼らがアメリカ文学という学術体系をとらえているか、あるいはこの体系にとらえられているかを明らかにした。

４．研究成果

先ず 2017 年 11 月、アメリカのシカゴで開催された American Studies Association (ASA)の年次大会にて、“William Gilmore Simms as a Node: Social Network of Antebellum Southern Exceptionalism”というタイトルで研究発表を行った。これは、上記課題名のうち、とりわけアメリカ南部例外主義に焦点をあてながら、19 世紀の南部作家 William Gilmore Simms を論じたものである。2016 年から立ち上げた読書会のメンバーで構成されたパネルで、それぞれの視角からこの地域の例外主義の問題を照射した。国際学会での発表は 30 年度以降行う予定であったが、読書会メンバーとの議論が予想以上に発展していったため、29 年度で実行するに至った。次に、29 年度初頭には日本英文学会の『英文学研究』英文号より、“‘Why Do They Live at All’: On the Southern Pneumatology in *Absalom, Absalom!*”を出版し、音声中心主義の視点から William Faulkner の小説と南部例外主義を論じた。この流れで、日本ウィリアム・フォークナー協会からの依頼で、2017 年出版の論集、*Faulkner and Print Culture* の書評を執筆した。この年度の研究はアメリカ南部例外主義研究についてのフレイムワーク、意義付けに費やされた。というのも、このトピックの包括する作家、作品は多岐に渡ることが分かったからだ。

翌年度、2018 年 5 月には、『フォークナー』誌において先述の書評を発表した。*Faulkner and Print Culture: Faulkner and Yoknapatawpha, 2015*（2017 年）は、アメリカ南部例外主義による影響によって危機に瀕した南部（文学）研究を背景としたときに最も光彩を話すという趣旨の書評である。そして京都で開催された国際学会、International Poe & Hawthorne Conference では、6 月 22 日に“Network Authors of the American South: Edgar Allan Poe and William Gilmore Simms”というタイトルで研究発表を行った。上述のプリントカルチャー論を 19 世紀南部文学において発展させた論考である。8 月 31 日のテクスト研究学会第 18 回大会では、「アメ

リカ南部のオルタナティヴ―シムズ、ポー、フォークナーのデジタル・アーカイヴ」という題で研究発表を行った。19 世紀から 20 世紀における南部作家をめぐるデジタル・ヒューマニティーズの現在を論じたものである。そして、3 月 15 日発行の FLC 言語文化論集『ポリフォニア』第 3 号において、“Echoes of Silence: Old Bayard's Disability in *Sartoris/Flags in the Dust*”という査読付き論文を発表した。ウィリアム・フォークナーの初期作品と身体障がい理論との接続である。

2019 年度では、南部例外主義文学をめぐる新たな方向性を確立することを目標とし、学会、論文発表を行った。その過程でプリントカルチャー論と遭遇し、この視点がいかにいままで行ってきた研究と相性が良いか、ということを確認した。まず、国内を代表する二つの学会、日本アメリカ文学会全国大会、そして日本英文学会全国大会にて、共にシンポジウムに登壇した。前者においては、「Hillbilly, Esq.――Mountain Boys と大恐慌時代のプリントカルチャー」と題して南部山岳住民ヒルビリー表象の在り様を論じ、後者においては「戦後ヒューマニズムとアメリカ南部例外主義――日本のフォークナー受容をめぐるプリントカルチャー」というタイトルで、文化冷戦の文脈における南部例外主義の問題を論じた。そして論文発表については、論集『空とアメリカ文学』に「『標識塔＜パイロン＞』をめぐるプリントカルチャーについて」を寄稿した。これは、プリントカルチャー論を視座として、これまで長年研究の焦点をあててきたウィリアム・フォークナーの小説を再解釈したものである。また、東工大の審査付き論文集、『ポリフォニア』では、19 世紀南部作家ウィリアム・ギルモア・シムズ、20 世紀南部農本主義者 Donald Davidson らについて論じた。近年の relational turn に対する南部文学史からの返答である。その他、再び日本ウィリアム・フォークナー協会、週刊読書人にて書評を寄稿した。上記のことが示すように、この年度の業績の多くを特徴付けるのは南部文化・文学とプリントカルチャー論である。この新たな方向性を得られたことが、これまでの研究成果の一つだ。そして南部例外主義、冷戦を語る上で必ず触れなくてはならない戦後自由民主主義の問題に取り組めたことは、この三年間の到達点であり今後の指標でもある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Ryoichi Yamane	４．巻 12
２．論文標題 Unintentional Fallacy: The Formalist-Liberalist Obviations of Donald Davidson and William Gilmore Simms	５．発行年 2020年
３．雑誌名 FLS言語文化論集　Polyphonia	６．最初と最後の頁 7-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Ryoichi Yamane	４．巻 11
２．論文標題 Echoes of Silence: Old Bayard's Disability in Sartoris/Flags in the Dust	５．発行年 2019年
３．雑誌名 FLS言語文化論集　Polyphonia	６．最初と最後の頁 37-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山根亮一	４．巻 514-13
２．論文標題 冷戦と日本のアメリカ文学者たち（インタビュー）	５．発行年 2018年
３．雑誌名 人文学報	６．最初と最後の頁 89-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Ryoichi Yamane	４．巻 58
２．論文標題 “Why Do They Live at All”: On the Southern Pneumatology in Absalom, Absalom!	５．発行年 2017年
３．雑誌名 STUDIES IN ENGLISH LITERATURE	６．最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　3件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 山根亮一
２．発表標題 戦後ヒューマニズムとアメリカ南部例外主義――日本のフォークナー受容をめぐるプリントカルチャーについて
３．学会等名 第58回日本アメリカ文学会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 山根亮一
２．発表標題 Hillbilly, Esq.――Mountain Boysと大恐慌時代のプリントカルチャー
３．学会等名 日本英文学会第91回全国大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 山根亮一
２．発表標題 アメリカ南部のオルタナティヴ ―シムズ，ポー，フォークナーのデジタル・アーカイヴ―
３．学会等名 テクスト研究学会第18回大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ryoichi Yamane
２．発表標題 “Network Authors of the American South: Edgar Allan Poe and William Gilmore Simms”
３．学会等名 International Poe and Howtherne Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ryoichi Yamane
２．発表標題 William Gilmore Simms as a Node: Social Network of Antebellum Southern Exceptionalism
３．学会等名 The Annual Meeting of American Studies Association（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

１．著者名 山根亮一	４．発行年 2019年
２．出版社 彩流社	５．総ページ数 28
３．書名 空とアメリカ文学（第8章「空のフォークナー文学――『標識塔〈パイロン〉』をめぐるプリントカルチャーについて」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

書評 「Faulkner and Print Culture: Faulkner and Yoknapatawpha, 2015」『フォークナー』松柏社, no. 20, 2018年, pp. 226-30.

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考